

今宮

今宮は、御本殿の裏からいくらか距離がある木立の中に建てられた、質素な神社です。鎌倉幕府に反逆したもののそれに失敗し、その行為で厳しい罰を受けた3人の天皇の魂を鎮める為に祀っています。1221年、後鳥羽上皇（1180-1239）は、天皇家の権力を回復しようと、日本で初めて武士が率いた政権である鎌倉幕府の転覆を試みました。1192年に幕府が立ち上げられたことで、京都の朝廷は無力に等しい状態となり、貴族の反感が高まりました。しかしこの反逆は、武士からの支持が得られなかったため、速やかに押さえ込まれてしまいました。後鳥羽上皇と息子たちの土御門上皇（1196-1231）と順徳天皇（1197-1242）は京都から追放されました。3人とも追放された身として、都を二度と見ることなく亡くなりました。中世の日本では、生前に不当な扱いを受けた人物の魂は、不当な扱いを行った者に復讐するために戻ってくることがあると考えられていました。ここに1247年に今宮が建てられたのは、この3人の天皇の魂を鎮めるためです。今宮はその後、鶴岡八幡宮によって大切にお祀りされています。